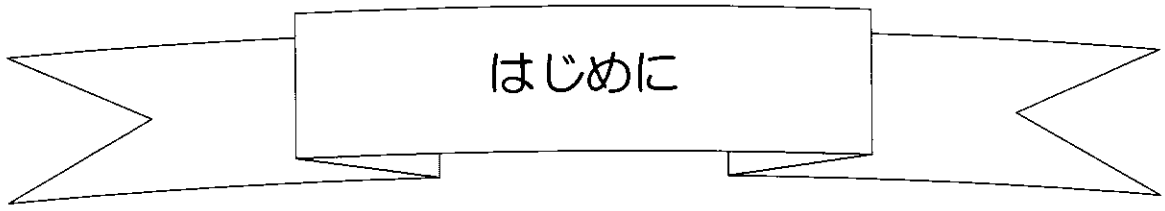


子どもたちへのメッセージ集 2008

～ 命の尊さと震災の教訓を語り継ぐ ～





へいせい ねん がつ にち はんしん あわじ だいしんさい
平成7年1月17日、阪神・淡路大震災があり、

おお かた な いえ うしな
多くの方が亡くなり、家を失いました。

だいさいがい けいけん かた いのち たいせつ
その大災害を経験された方たちから、命の大切さ

しんさい まな こ つた
や震災から学んだことを子どもたちに伝えるために

よ の
寄せられたメッセージを載せています。

よ
みなさん、ぜひ読んでみてください。

子どもたちへのメッセージ集 2008

～命の尊さと震災の教訓を語り継ぐ～

も く じ

☒ 子どもたちへのメッセージ (21通)	
震災当時の様子	1 ページ
たすけあい	8 ページ
教訓・備え	14 ページ
命の大切さ	20 ページ

※ 内容によってテーマ分類しています。

※ 経験や想いを尊重してお伝えするため、誤字・脱字を除き、
メッセージを原文どおり掲載しています。

☒ メ モ	25 ページ
---------	--------

☒ 子どもたちからの感想文 (5通)	26 ページ
--------------------	--------

☒ しあわせ運べるように	33 ページ
--------------	--------

☒ さいごに	
子どもたちへのメッセージ運動の概要	34 ページ

☒ 阪神・淡路大震災関連資料	35 ページ
----------------	--------

※ 阪神・淡路大震災関連資料は、震災10年～神戸の記録～（平成16年10月
神戸市広報課発行）と「阪神・淡路大震災被災状況及び復興への取り組み状況」

（平成20年1月1日現在）によるものです。

震災当時の様子

子どもたちへ

実家は、電気屋と銭湯を経営しています。

当時、小学3年生でまだ小さかったけど、あの日のことはよく覚えています。それまでに感じたことがない大きな揺れで、自分の上に照明器具が落ちてきて目が覚めました。両親と一緒に、何も持たずに外に出ました。外は、屋根の瓦が落ちていたり、町の人達が同じように外で避難していたりして、まったく違う風景でした。

店の中は、テレビが落ち、冷蔵庫は倒れ、銭湯の煙突は曲がっていました。これまで見たことのない光景に驚き、ただ家族が無事だということがうれしかった。店の前では、商品のラジオから流れる情報を聞くために、近所の人達が集まっていました。懐中電灯や電池を求めて来る人も多くいました。両親は、当然のようにお金をもらわず、「無事で良かったですね。」と来る人に配っていました。銭湯には、1日生き埋めになっていたという人も来て、みんなで無事を喜び、震災直後から数日間はそのやり取りが続きました。

このような災害が起きたとき、最も大事なものは人と人とのつながりです。お互いに助け合うことが、一番大切です。困っている人を、助けることのできる優しい大人になってください。それが、震災を体験した人達の共通の願いです。いつまでも、優しい心を忘れず、毎日を生きていってください。

2007年3月22日

足立紘亮

子どもたちへ

震災から13年が経ち、赤ちゃんだったのにもうお母さんより背が高くなり、抱っこできなくなりましたね。

あの日、大きな揺れがきて、とっさに、あなたの上にお母さん、お父さんが重なって、ガッシャンガッシャンという、縦・横へふりまわされる揺れを経験しました。

おちついて、周りをみると、初め、お父さんが寝ていた所には、タンクが倒れていました。あの時、親子しっかり一緒にいたからケガをする事なく無事だったのです。

食器は、ほとんど割れ、玄関の靴はすべてゲタ箱の戸が開いて、とびだしていました。その日から、度々の余震の中、家のかたづけと、電気、ガス、水道のライフラインが断たれ、あたり前に使っていた事ができなくなって不自由な思いをしました。

1杯のコップの水で顔を洗い、その水をトイレへ。ストーブの上でわかしたお湯で、頭を洗い、洗たくをする為、何度も給水車に並んでポリタンクで水をもらってきて、ぐっすりフトンで寝ていたはずなのに、寝がえりしかできないあなたが、涙でぐっしょりした顔で、玄関までできていましたね。そのすぐ後にハイハイができるようになりました。あの頃どの家も必死で、子どもたちを守り、育てるのに一生懸命でした。何でもない日常が一番幸せなのです。尊い命、自ら断つ事なく一生懸命生きて行ってほしいです。

19年11月26日

震災当時の様子

子どもたちへ

震災の前の年に生まれたむすめも、もう中学一年生になりました。

この子の年の数だけ、震災の記憶が遠のいていくようです。

産後、実家から我が家へ、その日の夜帰るつもりだった1月17日の、

早朝5時30分に、授乳のため起きて、おっぱいを与え、オムツを換え

…「今日はなんだか暑いなあ。」と思った矢先でした。窓の外の電信

柱が振り子のように動いたのが見え、「えっ。」と思った次の瞬間、

私たちの寝ている2階がグラグラと底からゆれだしました。とっさに、

まだ2ヶ月のむすめの上に、覆いかぶさりました。バラバラと本棚の

ビデオが私の上に落ちてきましたが、むすめは気付かず、地震がおさ

まった後も、すやすやと眠っていました。下で寝ていた1歳4ヶ月の

長男も私の母が同じようにかばってくれており、よく眠っていたそう

です。父が私たちに「大丈夫か、降りてきなさい。」と言いました。

実家は山間部だったので被害も少なかったのですが、我が家は海に近く、

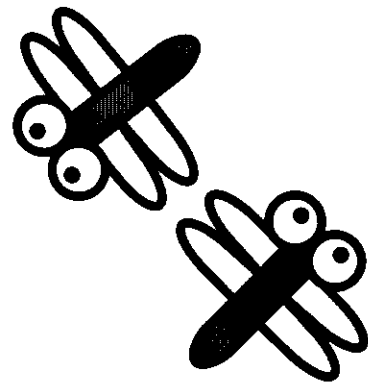
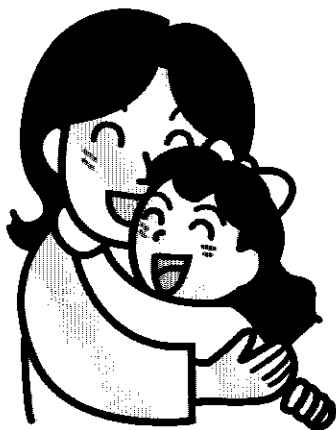
家の中はテレビが飛ぶなど、ものすごい有様だったそうです。もし、

1日でも早く帰っていたら…と思うと、「生かされている命」という

ものを感じます。震災直後は小さな子どもを抱えて、色々大変なこ

ともありましたが、人の手助けをいただくなど、嬉しかったこともたくさんありました。娘の成長とともに、私の生まれ育った神戸が復興していくのは、感慨深いものがありました。

子どもたちに震災の記憶はありません。けれど、「あなたが生まれた頃に、こんなことがあったんだよ。」と、親として、語り継いでいかなければなりません。「だから今のあなたたちがある…！」と。

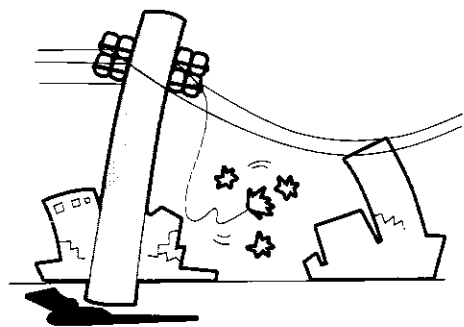


震災当時の様子

子どもたちへ

朝早くに、ゴーと言うじなりの後に大きなじしんがありました。病院
ではたらいっていたのですぐに病院に行きました。病院もつぶれていき
うめになった、にゆういんかんじゃさんやかんごしもいました。きゅ
うきゅうがいらいに行くとかくさんの人がけがをしてつめかけていま
した。しんでいる人もたくさんいました。子どももたくさんはこばれ
てきました。男の子が、はこばれて来ました。もううごかなくなっ
ていましたが、たすけようといろいろしました。でもそのこは死んでし
まいました。その子のおとうさんは、泣きながらおかあさんと、ほか
の子どもをたすけに家にかえって行きました、その子は小学校の5年
生でした。もうその子は元気にはしることも、べんきょうすることも
できません。その日は一日中そんなことのくりかえしでした。だれも
たすけることができませんでした。人の命をたすけることがしめいの
看護師なのに大切な命をたすけられなくてごめんなさい。今も心の中
であやまっているんです。

2008年1月16日



子どもたちへ

私は、震災の当日は、仕事で会社に泊っていましたので家族のことは
知りませんでした。後日になってから、家内から聞いた話ですが、あ
まりにもさびしかったと思い、書くことにしました。

当時、地震発生のはときは、私の家は2階だての家でした。地震で家は
ペシャンコになり、子供は、2階から脱出が出来ましたが、家内が下
の部屋でとじこめられました。子供達は兄妹3人が力を合わせて外に
は出たものの、母親がいないと分かり、大きな声で「おかあちゃん」
とさげびましたところ、下にいた家内は、声に気づき子供の生存は分
かったが、自分の脱出が出来ずにいたところ、ガスのにおいが充満し
てきたので家内は、そばにいと子供も命が危ないと思ってもっとはな
れろと指示をするがまだ小さかったものですから、母親のそばから、
はなれられなくなり、その内、外も明るくなり、小さな穴が見えたので、
子犬のようにその穴から、体じゅうキズだらけになり脱出が出来、3
人の子供と母親で抱きあって生きてるよろこびを感謝したそうです。
私は仕事でなにもできなかったが、神様のおかげとかんじているもの
です。

20年2月3日

小島 実

震災当時の様子

子どもたちへ

「図工室で棺桶組み立てたなあ…」生涯忘れることのできない言葉です。
私が神戸市の小学校に初めて赴任したのは、震災の次の年の春でした。
神戸市立御蔵小学校…そう、大火災のあった長田、菅原商店街のすぐ
そばに建つ小学校。職員室で震災当時からいる先生がそう話して聞か
せてくれました。ほかに…毎日梅干しをきっちり20個ずつ数え、ラ
ップに包んで避難している人に配っていた…とかトイレ掃除にかなり
の時間を費やした…とか…。聞けば聞くほどに言葉を失ってしまいま
した。震災により多くの尊い命が失われました。また、命は助かって
も住む所を失ったり、大切な思い出を失ったり…心の平安が失われま
した。

1月17日、この日が来る度に同じことばかり思い出します。毎年、我
が子に同じことばかり話して聞かせています。でも決して忘れてはな
らないことだから、来年も、再来年も、そしてそれからもずっと、同
じことを話して聞かせるだろうと思います。話し伝えることこそ私に
できること。

震災から12年経つ今、神戸の多くの人々には明るい笑顔が戻りました。
震災で味わった深い悲しみを乗り越えた、強く明るい笑顔です。

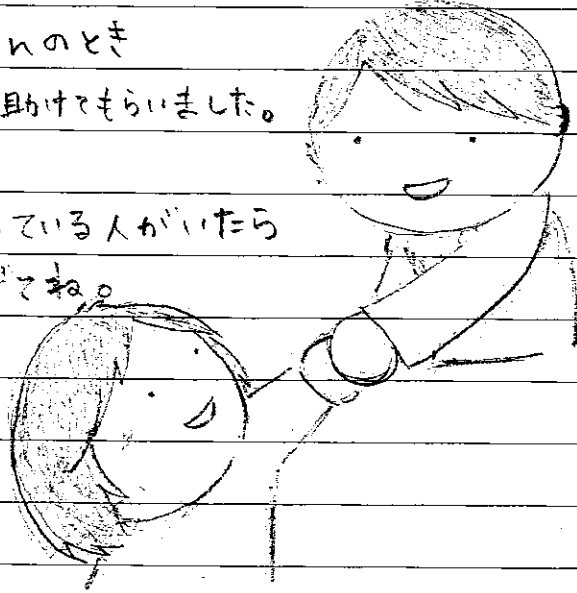
まだまだ解決しきれない問題はあるのかもしれませんが、この12年間、
ひたむきに強く生きて来た神戸の人達に学び、私も強く生きていきたく
いです。

H19年12月3日

子どもたちへ

こうべはじいさんのとき
たくさんの人に助けられました。

みんなもこまっている人がいたら
手をかしてあげてね。



年 月 日

お名前:

より

この欄は公開します。とく名を希望の方はペンネームまたは空白でお願いします。 No. 143

たすけあい

子どもたちへ

わたし しんさい とき ひがしなだくふかえほんまち ちどうめ す
私は、震災があった時、東灘区深江本町2丁目のマンションに住ん
でいました。ふかえ ちいき どうかいのおく おお わたし しょうがっこう ねんせい むすめ
深江地域は、倒壊家屋が多く、私の小学校5年生の娘の
どうきょうせい おやこ にん かい したとき な
同級生も親子4人がマンションの1階で下敷きになって亡くなるなど
おお かつ な
多くの方が亡くなりました。

じしん あさ あか め はい こうけい みなみ
地震があった朝、明るくなって目に入ってきた光景、すぐ南にある
はんしんこうそく たお じょうきょう あぜん きんじょ ひとたち
阪神高速が倒れている状況に啞然としました。また、近所の人達が、
い よ た あ なみだ なが こうけい いま わす
生きてて良かったと抱き合っって涙を流していた光景は今でも忘れるこ
とが出来ません。

しんさい とき いろいろ わたし わす
震災の時に色々なことがありましたが、私にとって忘れられない、
また、かんどう ひと こども なかま たいせつ きもち
感動したことの一つは、子供たちの仲間を大切にする気持ちです。

じしん あさ ちか ひがしなだしょうがっこう かぞく つ ひなん
地震の朝、近くの東灘小学校へ家族を連れて避難しようとむかった
とき どうはつ ちいろう そ ちゅうがくせいぐらい こども ふたし だれ き ともだち
時に、頭髪を茶色に染めた中学生位の子供2人が「誰か来て。友達が
いえ したじ たす ほ おお こえ だれ
家の下敷きになっている。助けて欲しい。」と大きな声で誰かれなし
こえ で ちか なんにん おとこ ひと
に声をかけているのに出くわしました。近くにいた何人かの男の人と
こども あと ぶんかじゅうたく たお つ い
ともに、子供の後をついていくと文化住宅が倒れたところに連れて行
かれました。ほか ひと いっしょ げれき こども ちちおや
かれました。そこで、他の人と一緒に瓦礫をのけていくと子供と父親

があらわれ助け出すことができました。私に声をかけた子供たちが、

助け出された友達を畳の上に乗せて東灘小学校へ運んでいきました。

その姿を見て、私は、この子たちが友達のことを心配して探しに来な

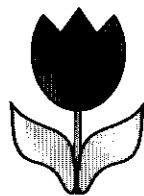
ければ、また、まわりの大人たちに助けを求めに来なければ、もしか

したら、2人を助け出すことが遅れて最悪の事態になっていたかもし

れないと思いました。

今風の子供たちでしたが、仲間を、友達を大切にする思いが、父子

を助けたのだと思います。



たすけあい

子どもたちへ

ダイヤモンドが輝くように

震災のあと長い間、電気やガス、水道が止まったままでした。いつもは簡単にできる食事や風呂、トイレにも困る毎日でした。朝起きてから夜寝るまで、ずっといつもやっている過ごし方ができません。そんな毎日に、呆然として自分は何をしないといけないのかわからなくなってしまう人がたくさんいた中で、きらりと光る人もいたのです。

「水が出ないなら川からくんでこよう」「冷たいお弁当がかたくて食べられないお年寄りのために、皆で協力して炊き出しをしよう」「耳が不自由な人のためにニュースを書いて張り出そう」「物資を配る作業を班ごとに順番でするルールを決めよう」。いつもと違う不自由な生活を、皆ができるだけ快適に過ごすために、知恵を出し合って工夫し、周りを引っ張っていく努力をできる人たちがいました。

決まったことをいつも確実にできる人はえらい。学校で習うことをきちんと覚える優等生もえらい。でも大きな困難に出会ったときに、力を発揮できる人になれるかどうかは、それはちょっと違うのです。

何が問題なのか、自分の目で見えて耳で聞いて確かめる。なぜそうなのかが考える。正解がないかもしれないけど、どうしたら最も良い結果を得られるか。自分の頭で考え抜く一非常時に自分や周りの人のために頑張れた、きらきら光るような人たちは、そんなことに1つ1つ取り組んでいく人でした。

あなたにもそんなダイヤモンドのような大人になってほしいのです。

2008年1月30日

みがけばひかる

子どもたちへ

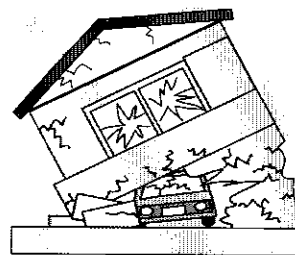
震災が起こった日のこと、私は今でも深く後悔しています。

私の自宅は明石市にあり、大きな被害はなかったのですが、すぐに長田区の山の手にあった勤め先に出勤しました。そしてその日に私がやっていたことは、勤め先の倒れた棚や冷蔵庫を元に戻す作業でした。ほんの数キロメートル南では、がれきの下に人が埋まり、逃げることもできないまま炎に包まれようとしていたというのに、です。

生まれてはじめての、予想できないほど大きな災害でした。だから私はあの時、自分が何をすべきなのか、まったくわかっていなかったのです。もし私が、被害の大きい地区の人々の大変な状況を想像することができていて、そこに駆けつけていたなら、ひょっとして、少しは誰かの助けになっていたかもしれない。そう思うと、あの時の自分が恥ずかしくてなりません。

助け合いの出発点は、想像力だと思います。災害は、自分の身に降りかかっていないと、難儀している人のことがわかりにくいかもしれませんが、その時こそ、想像力が必要なのです。みなさん、私のような失敗をせず、想像力を働かせて「自分が今やるべきことは何か」に気付ける人でいてください。

2008年2月4日



たすけあい

子どもたちへ

ママが働いていた“デイサービス”というところへ遊びに来てくれたMさんのお話をします。あの震災で家がなくなってしまって“仮設住宅”で生活をしていたMさん。色々なもの、大切な人…をなくされて、悲しい毎日を過されていたはずなのに、本当に明るくて、まわりの人たちを楽しくしてくれる人でした。私も大好きで、Mさんが来るといつも楽しくおしゃべりしました。足が少し悪くて不自由な生活をされていたのだけれど、あの明るさは、どこから生まれてくるのかなあ…と不思議に思っていました。その元気で明るいMさんは、今からお話することに支えられていたということを知りました。Mさんが、震災直後、恐怖と寒さで死にそうな想いをし、片隅で震えていたそうです。そこへ来た1人のまだ若い自衛隊の方が、Mさんに「大丈夫ですか？」と声を掛けて来ました。その自衛隊の人は、何も言わず、自分の着ていたジャンパーをさっと脱ぎ、Mさんに着せてやりました。あの激寒の中、その人は薄いシャツ1枚だったとMさんはおっしゃってました。「こんな寒いのに、それでは風邪をひいてしまいます」と、ジャンパーを返そうとした手を振りきって、「頑張ってくださいよ!! 大丈夫ですよ!」と明るく笑顔で、勇気づけてくれた自衛隊の人の、その時の笑顔が、今でも、ずっと頭にあると言われてました。『頑張ろう!』と強く心に決めた瞬間だったそうです。(本当にすごいなあ…)と私は、涙が止まりませんでした。Mさんと2人で泣きました。そのMさんは、天国で今の私を支えてくれています。

2008年1月30日

佐々木あきこ

子どもたちへ

平成7年1月17日 午前5時46分 阪神淡路大震災

あれから13年、思い出に出来ないけれど、今もあの恐怖と悲しみは忘れられない。
「くさんの命がうばわれた。恐ろしい地震、あつ日。」



神戸の街は、失った命の灯を取り戻し、かのように明るく、美しく、元気の街になりまし。でも一度失った人の命は、何年たっても何十年たっても二度と取り戻すことは出来ないのです。忘れかけている地震の恐怖や悲しみを決して忘れてはなりません。

今、私たち一人一人が、家族、学校の先生、友達と協力して、それは、地震への備えです。いつ来てもパニックにならないよう心の備えも大切。

- 緊急時、すぐに持ち出せるように防災バック一式
- 保存用の飲料水、食べ物
- 家具が倒れないように補強
- 避難経路、避難場所(家族で話し合っておく)
- 携帯電話が使えないことを想定して、小銭(10円玉)も用意しておく
- ラジオ(手動式)
- 火の元の確認(ガス、電気)

細いことばもたくさんあるでしょう。これらすべて大切な命を守るために絶対に備えておきたいことです。

どうか忘れないで、自分にちが大切な命を守りましょう。



2008年 1月 27日

お名前: 文... 智奈、ママ 絵... ちな より

この欄は公開します。とく名を希望の方はペンネームまたは空白でお願いします。 No 077

教訓・備え

子どもたちへ

平成7年1月17日 午前5時46分に阪神・淡路大震災が起こりました。

まさか、神戸で大地震が起こるなんて誰もかおもっていませんでした。

日本は世界でも有数の地震国です。あの震災からもう13年が経ちました。

しかし、神戸ではもう地震は起こらないかおもってはいけません。『天災は

わすれた頃にやってくる』のです。

でも、怖れることはありません。あの体験から、私たちは非常に重要な

ことを学びました。この教訓を子どもたちに伝えていかなければなりません。

災害に対して、まず大事なことは、自分や、家族の命を守ることです。

それには、日頃からの心構えが大切です。『自分には何ができるのか。』

を常に考えておきましょう。

家具等の倒壊を防ぐ措置をし、2・3日家族が生活できる水、食料や、

携帯ラジオ、ポリタンク等を常に用意しておきましょう。

家にいられない場合も考えて、自分の住んでいる地域の避難場所はどこ

かを確認しておきましょう。

自分や家族の安全が確認できたら、次に行くことは、隣近所に住む人達

の安否を確認することです。常日頃から、隣近所に住む人達のことを気に

かけておきましょう。自分や家族が、反対に助けてもらうことになるかも

しれません。都会では、人間関係が希薄になりがちです。隣近所に住む人

達のことを気にかけておきましょう。地域で開催される防災訓練にも進んで参加しましょう。

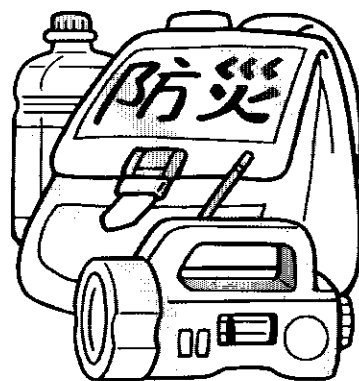
大災害では、自分達でできることにも限界があります。自分や家族、また隣近所の人達だけでは解決できないことが、多く起こります。

そのような場合でも、秩序を守り、自分達を助けてくれる人達に感謝し行動することが必要です。

今の世の中は、自分のことしか考えず、他人のことを考えないで行動する人達が増えてきています。

常日頃から、他人の事を考え行動する習慣を身につけるようにしましょう。

災害をなくすことは出来ませんが、でも必要以上に怖れる心配はありません。常日頃の行いや、ちょっとした心がけ次第で、被害を少なくし、減らすことができます。これが震災を経験して子どもたちに伝えたいことです。



教訓・備え

子どもたちへ

地震さん、あんたになんか、^ま負けないよ。

ドッスン、きても、すじかい入れて、家の造りは、完べきよ。

ぐらぐら、きても、^と留め金つけて、^お落ちるものは、^{なに}何もない。

じいちゃん、ばあちゃん、^{とろ}父ちゃん、^{かあ}母ちゃん、^こ子どももみんな、

^{くんえん}訓練しっかり、いざというとき、どうするか、

あわてず、さわがず、^み身を守り、^ひ火も消して、^{こころ}心の準備もできてるよ。

^{ほきさい}防災グッズは、きちんと、そろえ、

いつでも^も持ち出し^だできるんだ。

^{たいせつ}大切な人を、^な亡くした、^{かな}悲しみは、

^{けつ}決して、^{けつ}決して、^{わす}忘れない。

^{こんど}今度きても、^{まえ}前のように、させないよ。

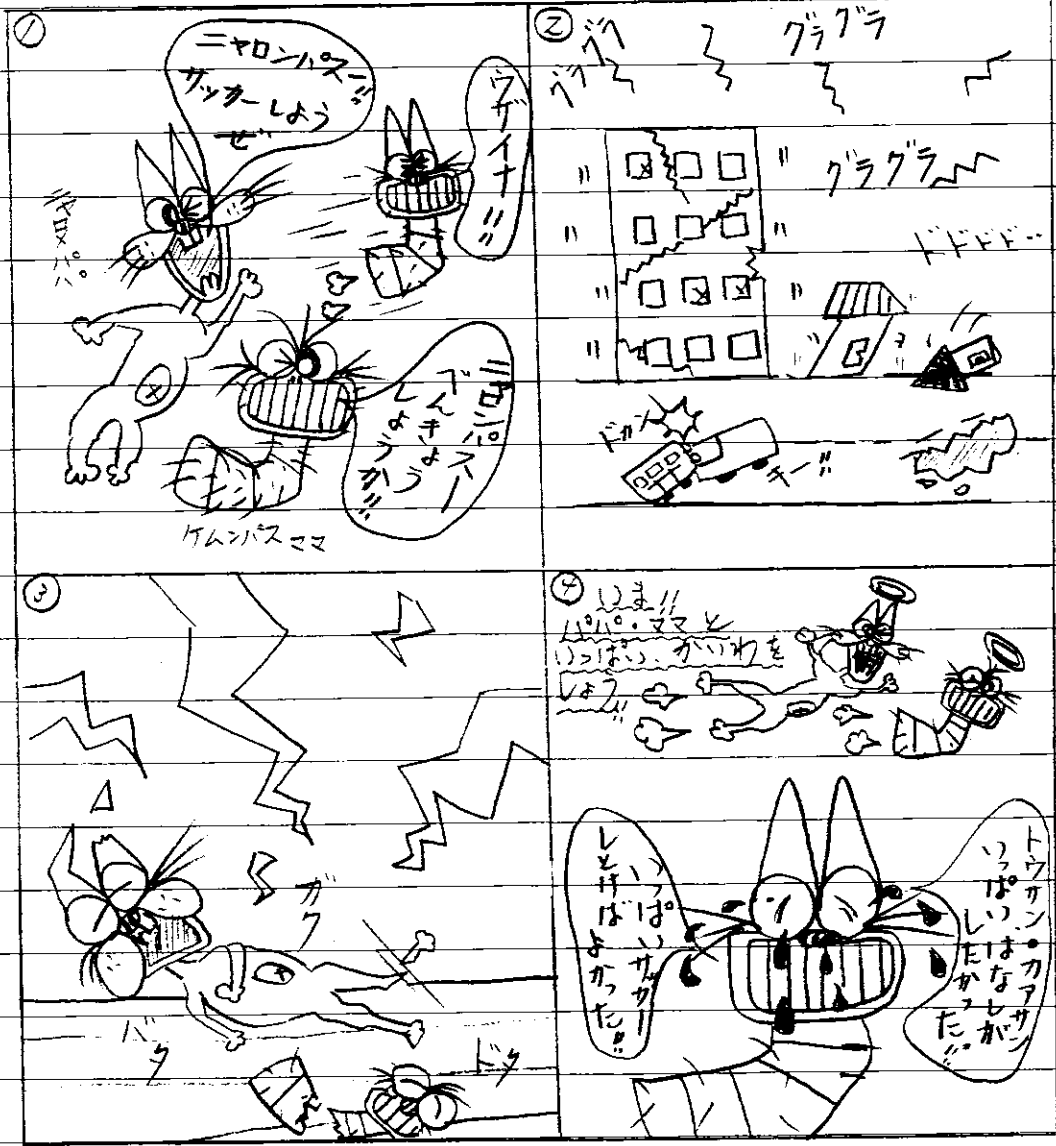
地震さん、あんたになんか、

ぜったい、ぜったい、^ま負けないよ。

20年1月17日

加藤敏子

子どもたちへ



平成20年 1月 17日 お名前: ペンネーム グランパ より

この欄は公開します。とく名を希望の方はペンネームまたは空白でお願いします。 No. 063

子どもたちへ

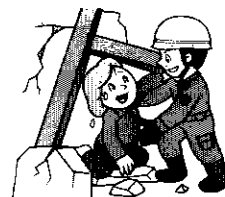
感動

命さえあれば、何もいらない…耐えた叫んだ極限状態の七時間。幸運に幸運が重なって倒壊家屋下の生き埋め状態から奇跡の生還。バイク二台、ガソリンもれ危機一髪状態。

阪神淡路大震災の時、東灘区に住んでいました。二階が落ちてきて、一階が押しつぶされて生き埋めになってしまいました。助かりたい、一心で、一生懸命助けを呼びましたが、手答えがありません。埋まっている者同志、幸いに話が出来たので、横に寝ていた夫が、一か八かわらもつかむ思いでこたつを足でけてみたところ、一足先に自力で出ていた二十五才の息子に伝わり「生きている」の声と共に近所の方々五、六人に七時間後に助けて頂きました。

極限状態の中、壁土を落す音、木を切る音、それを触ったらだめ、とか、うれしいやら、怖いやら複雑な気持。頭はどこ、足はどの辺りの声。

幸運に幸運だった事は、偶然にお隣さんは大工さん。この震災でお金で買えない命の尊さ、人の心の優しさ、水、空気、健康の有難さ痛感、息子の声が神様の声聞こえた事。重要な体験として生き埋めになると、片道切符現象、つまり、外の音、声は中に聞こえるが、中からは通じない事。こんな現象が起きるので、こんな時は手、足、頭の動く所で音を出す。響いて外に伝わるよ。必ず覚えていてね、沢山の命が助かるように。



平成20年1月27日

荻野君子

子どもたちへ

『命の尊さ』生きてくても生きれなかった多くの人がありました。

助けたくても助けられずに悲しい思いをした人もたくさんいました。

どれだけの人が悲しい思いをしたでしょう。

誰が悪い訳でもなく、自然の恐ろしさを思い知らされ、どうする事も出来ませんでした。

地震の前日、「明日も又、いつものように朝が来て、楽しい事が待っているんだ」と思っていました。いつものように朝ごはんを食べていつものように一日を過ごすんだと。

当たり前のように思っていた事が、突然変わってしまったのです。

当たり前のように使っていた水道やガス、電気が使えなくなると自分一人ではどうする事も出来ませんでした。近所の人達と助けが来るまで協力をしました。寒さをしのぐ為に車を出してくれた人や、ストーブで温かいお茶を沸かしてくれた人。

人の優しさに感謝をして、人の温かさを大切にしたいと思いました。

明日はどうなるのかなんて、誰にもわかりません。

だから、その日その日を大切に生きて欲しいです。

当たり前だと思わないで、どんな事にも感謝をして、感動して欲しい。

人を傷つけないで欲しい、自分も大切にしたい。

命の尊さを忘れないで欲しい。そして一日も無駄にしないで欲しいです。

平成19年11月26日



命の尊さ

子どもたちへ

大きな地震で、たくさんの人が亡くなりました。つぶれた家の下じき
になったり、くずれたコンクリートが頭の上からおちてきたり…
さっきまで生きていた人が、あっと言う間に死んでしまいました。
生きたまま、火事にまきこまれ、もえていった人もいます。

だから、今、生きているみんなは、生きて下さい。生きて、生きて、
生きて下さい。できるだけ楽しく、できるだけ元気に生きるのがいい
ですね。

でも、生きていると、つらかったり、苦しかったり、かなしかったり
することが、かならずあります。そんな時には“何くそ!!”と思い生
きてください。死にたくななくても死ななければならぬ時がくるまで、
“何くそ!!”と思い、生きて下さい。

生きるということは、それだけで、素晴らしいのです。

あなたが生きているというだけで、よろこんでいる人がいます。

だから、生きて下さい。せいいっぱい、生きて下さい。

あなたの人生がくいのないものになるように、

心から祈ります。

2007年12月14日

神戸のおばちゃん

子どもたちへ

たくさんの尊い命が失われた阪神・淡路大震災から13年がたちました。

もう小学生のみなさんで震災を経験した人はいないとよくニュースで聞きます。だんだんと震災の記憶がうすれてしまうのかな…と思います

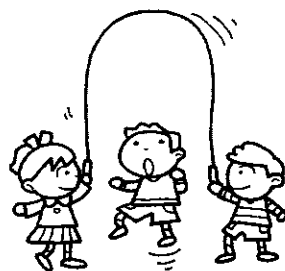
した。街をよみがえらせるために、人と人がけん命に力を合わせた事が遠い昔の話になってしまうのかな…と。

けれども決してそんな事はありませんでした。新聞を読んでも、ニュースを見ても、今まで知らなかった震災のつらい経験を知ることができました。そして、命って本当に大切に尊いものなんだ、と気持ち新しくされたような気がしました。

伝える人がいる限り、震災の記憶はうすれることはないと思うのです。みなさん1人1人は、神様からいただいた本当に大切になくてはならない存在です。この世の中に同じ人は他にいません。人生は一度だけです。失敗は何度あってもいいと思うのです。ただ命だけは大切にしたいと、大人達は願っています。

2008年1月23日

藤原弘子



命の尊さ

子どもたちへ

いのち と まえ
命を止める前に…。

とお なにもの お よ
遠くから何者かが押し寄せてきた。

こひび
地響きだ。

はは かわ の じ になっ て ねむ りがこ て こき
母は川の字になって眠る我子の手をひたすら握りしめた。

こわ なが なが ぐ なに
怖くて長い長い揺れの中。

ゆめ
きっと夢にちがいない。

ゆめ から 覚めたとき、 神戸の町は碎けていた。

おほ いのち なが なが なが
多くの命ががれきの中に埋もれてしまった。

い きたい、 もっと 生きて いたい と 叫びながら…。

きのう しあわ ねむ
昨日は幸せに眠りについたらはず。

けっして、 明日の朝の陽を見ることは許されなかった。

あさ き よる むた しあわ
朝が来て、夜を迎えることの幸せをかみしめてほしい。

い いのち
生きたかった命があるんだ。

じぶん いのち と まえ
自分で命を止める前に、

おも だ
それを思い出してほしい。

19年11月28日

竹下孝枝

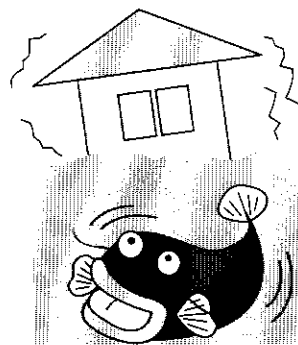
子どもたちへ

震災の大きな揺れ—「地球が壊れる」と思う程の揺れでした。その後、余震があるたびに体が固まり震えました。水道、電気、ガス、電話も止まり、当たり前にあった物がすべてなくなり、とても困り、それらの大切さを感じました。又、近所の人達と声をかけ合ったり、支え合う事も出来ましたし、まず、「生きている事」に感謝しました。

知り合いの方が自宅で屋根の下じきになり、亡くなりました。昨日まで、お話をしていた、3人もの方がいなくなり、とても悲しかったです。

今、子ども達の間で、イライラすると「死ね」「殺すぞ」と、日常会話の中で、その様な言葉が飛びかっていますが、震災で亡くなった方の家族の悲しみを考えて、その言葉を、これからは飲み込んで、軽く、吐き出さないように心がけて下さいね。

平成20年2月5日



隈部里美

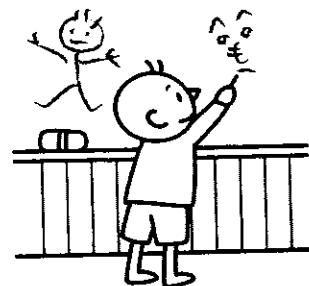
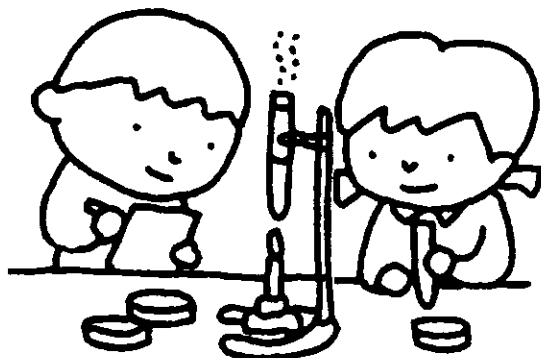
このメッセージを^よ読んであなたが^{かん}感じたことを^か書いてみてください。

こどもたちからの感想文

平成18年度中に寄せられたメッセージを協力校となっていた
学校にお届けしたところ、小・中学校から感想文をいただきました。

また、ホームページに掲載していたメッセージ集を使って震災学習に
取り組まれた高知県香南市立野市小学校から児童の感想文をいただきました。

その中から、5通の感想文をご紹介します。



な ひと ぶん い とき たす あ いのち たい
亡くなった人の分も生きていざという時はあせらずに助け合い命を大
せつ
切にしていきたいと思いました。地震をうけなくてよかったと流すの
かな おも ひと いっしょ じしん わす い
ではなく、悲しい思いをした人と一緒に地震を忘れずに生きていき
いま ことば まち ぶっこう じしん う ひと
いです。今、神戸の町が復興しているのは地震を受けた人ががんばっ
ちから あ の おも
て力を合わせて乗り越えてきたからこそだと思いました。



メッセージを読んで

たがしやうちゅうがっこう

鷹匠中学校 3年 松島なぎさ

わたし はじ め、これらのメッセージを^よ読んだとき「^{ほんとう}本当にこの^{こうべ}神戸でそんなことがあったのだろうか。」と^{しん}信じることはできませんでした。あまりにも^か書かれている^{ないよう}内容が^{そうぞつ}壮絶で、^{いま}今の^{こうべ}神戸と^{くら}比べることができなかつたからです。しかし、^{はんしんあわじだいしんさい}阪神淡路大震災は^{たし}確かに^お起こって、^{ひとびと}たくさんの方々の命を^{いのち}うばっていました。そんな^{できごと}出来事を^{おぼ}覚えていない^{わたし}私は^{しあわ}幸せなのか、それとも^{ふこう}不幸なのかわからなくなりました。でも、こんな^{いま}ふうに^{しんさい}今生きて、^{かんが}震災について^{かんが}考えることができるのも、あの^{わたし}とき^{いしやうけんめい}私のことを^{まも}一生懸命に^{まも}守ってくれた^{しやうしん}両親のおかげなんだと、^{わたし}たくさんの方々の^よメッセージを^し読んで^{わす}知ることができました。忘れては^{たい}いけない大切な^{せつ}ことを^{おも}思いださせてくれた、^{ひざいしや}被災者の^{かたがた}方々に^{こころ}心から^{かんじや}感謝したいです。

「子どもたちへ」感想

友が丘中学校 3年 早川佳那

平成7年1月17日から13年が過ぎました。何も覚えていない私達が唯一学べるのが、大地震を経験した人達の見聞です。

彼らは必ず「助け合って生きていた」と述べています。今の生活では想像できません。

けれど当時のビデオを見ると水を確保するために1つの給水場へ長蛇の列を作って辛抱強く順番を待っている姿がありました。「本当に全員に水が回るのか!？」という状況でも決して争うことなく、寒い中をただ待っていました。それは「みんな同じ状態で同じ気持ち」と復興を願う気持ちがひしひしと伝わってきました。「自分だけ助ければ良い!」

私が感じたのはそんな思いはみじんのかけらもないことでした。

みんなただひたすらに元の生活が戻るのを願い、お互いに手を取り、助け合っていました。

そういう姿は全く見かけたことがなかったので純粹に驚きそして心を打たれました。

二度と地震はおきて欲しくないけれど、助け合う姿は決して忘れてはいけないと思いました。

子どもたちへのメッセージ集2007を読んで

ながさからゅうがっこう

長坂中学校 3年 福井博希

とつぜん お じしん いのち うしな ひと に じさいがい か じ いのち うば
突然起きた地震に命を失った人、その二次災害である火事に命を奪わ
れた人が6千人以上を記録しました。きっと僕なら突然の事に驚き、
ただ立ち尽くし、安全な場所を確保するために逃げていたのかもしれ
ません。

とうじ こうべしめん とも たす あ ゆうかん うず はい
しかし、当時の神戸市民は共に助け合い、勇敢にもがれきの渦へ入っ
ていったのです。知らない人々の命のために、必死になって戦ったの
です。そう考えると、僕にとって神戸という街は誇りです。きっと当
時2歳の僕も親やご近所さん、全く知らない人にも助けられた一人だ
と思います。僕の命を助けてくれた人達のおかげで今、ここに生きて
いることを実感し、その人達に恩返しをする意味も込めて、僕も誰か
の役に立てるように生きていきたいです。そして、全ての人に感謝の
気持ちを持ち続けます。

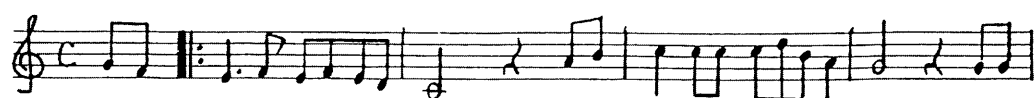
こうべ し かた がた
神戸市の方々へ

こうち けん こうなん しりつ の いちしょうがっこう
高知県香南市立野市小学校 6年 吉岡拓海

あなた達は震災という地獄を乗り越えて今生きているのですね。ぼくは震災というものを被災していないので、わかりませんが、それは突ぜんやってくるものでしょう。一しゅんで家や車、土地、そして最もかけがえのない命。それらがかんたんにはうばわれてしまう。それはあってはならないことです。ですが自然には逆らえません。ですがひがいを少なくすることはできます。だから今日習った阪神・淡路大震災のことから学び、高知を中心におこってしまう南海大地震にそなえ水や非常用の食料、家ぞくが落ち合う場所。それらをみんなで決め、一つでも多くの命が助かるようにしたいです。最後になりますが阪神・淡路大震災を通して、人と人とのキズナ、そして命の大切さを教えてくれてありがとうございました。これからも自分の命や他の人の命。それを大切にしていきたいです。

平成20年1月17日

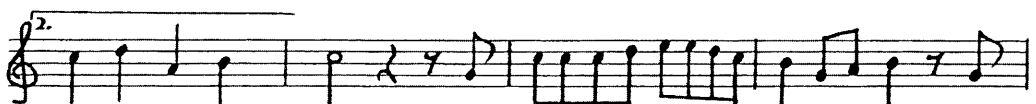
しあわせ運べるように 作詞・作曲 臼井 真



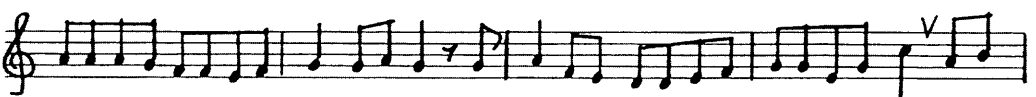
じしんにもまけない つよ いころをもって なく
ついたこうべを もとのすがたにもどそう ささ



なったかたがたの ぶんもまいにちをたいせつに いきていこう ささ
えあうところと あしたへのきば



うをむねに ひびきわたればくたちのうた う



まれかわるこうべのまちに とどけたいわたしたちのうた しあ

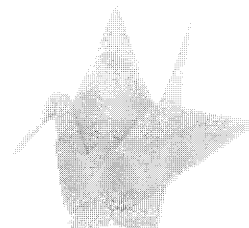


わせはこべるよう に

一、地震にも 負けない 強い心をもって 亡くなった方々のぶんも
毎日を 大切に 生きてゆこう
傷ついた神戸を 元の姿にもどそう
支え合う心と 明日への 希望を胸に
響きわたれ ぼくたちの歌 生まれ変わる 神戸のまちに
届けたい わたしたちの歌 しあわせ 運べるように



二、地震にも 負けない 強い絆をつくり 亡くなった方々のぶんも
毎日を 大切に 生きてゆこう
傷ついた神戸を 元の姿にもどそう
やさしい春の光のような 未来を夢み
響きわたれ ぼくたちの歌 生まれ変わる 神戸のまちに
届けたい わたしたちの歌 しあわせ運べるように
響きわたれ ぼくたちの歌 生まれ変わる 神戸のまちに
届けたい わたしたちの歌 しあわせ運べるように
届けたい わたしたちの歌 しあわせ運べるように



さいごに

このメッセージは、阪神・淡路大震災を知らない・よく覚えていない子どもたちに、命の尊さや震災の教訓を語り継ぐために寄せられたものの一部です。

このメッセージが子どもたちの心に届きますよう、みなさまのご協力をお願いいたします。

子どもたちへのメッセージ運動の概要

「子どもたちに伝えたい、阪神・淡路大震災に関連する経験や思い」をテーマとして、震災のときに生まれた子どもたちが大人になるまで、毎年、メッセージを募集し、伝えつづけていく予定です。

16年度から19年度の取組み

年度	メッセージ 募集期間	応募数 (通)	メッセージ展	メッセージ集
16年度	平成16年4月 ～平成17年1月	557	平成17年3月17日 ～3月30日	2005
17年度	平成17年2月 ～平成18年1月	256	平成18年3月17日 ～3月30日	2006
18年度	平成18年2月 ～平成19年1月	222	平成19年3月17日 ～3月26日	2007
19年度	平成19年2月 ～平成20年1月	173	平成20年3月18日 ～3月27日	2008

〈平成20年度〉

前年度同様に、メッセージを募集しています。(平成21年1月31日締切)
詳細は、神戸市のホームページをご覧ください。

ホームページ検索

子どもたちへのメッセージ運動

検索

お問い合わせ先：神戸市保健福祉局総務部人権推進課 電話 078-322-5234

《子どもたちへのメッセージ運動の活動（募集、メッセージ集編纂等）にご協力いただいた方々》

(五十音順、敬称略)

クリスタル・ベル、神戸市PTA協議会、神戸市立幼稚園PTA連合会、神戸市立小学校PTA連合会、神戸市立中学校PTA連合会、神戸市立高等学校PTA連合会、神戸市立盲・養護学校PTA連合会、神戸学院大学地域研究センター、神戸市混声合唱団、神戸市老人クラブ連合会、神戸デザイナー学院、神戸ヤングクリエイティブクラブ、サークル 紙ふうせん、大日通周辺地区まちづくりを考える会、日本赤十字社兵庫県支部及び声の図書奉仕団

《これまで協力校となっていたいただいた学校》

池田小学校、板宿小学校、檉野台小学校、春日野小学校、高津橋小学校、塩屋小学校、本庄小学校、湊川多聞小学校、本山第二小学校、若宮小学校、鷹匠中学校、鷹取中学校、友が丘中学校、長坂中学校、蒼合中学校、本庄中学校、兵庫県立舞子高等学校

<参考資料>神戸市「阪神・淡路大震災 被災状況及び復興への取り組み状況」
(平成20年1月1日現在)より抜粋

神戸市の被災状況等

震災は、多くの命を奪うとともに、都市基盤や建築物に甚大な被害を与え、市民に直接的な大被害を与えた。また、復旧の長期化に伴い、産業、都市機能、生活などに様々な影響を及ぼしている。

<p>(1) 市民生活への被害</p> <p>① 多大な犠牲者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・死亡者 4,571人 (H17.12.22) ・不明 2人 ・負傷者14,678人 (H12.1.11) ・高齢者(60歳以上)が死亡者の約59%* ・家屋倒壊による死者多数(窒息・圧死が全体の約70%*) <p>※ 高齢者、家屋倒壊による死者の割合は、平成17年12月22日現在(死者4,571人)での割合(ただし、窒息・圧死の割合は直接死3,895人での割合)</p> <p>② 避難</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピーク時: 箇所数599箇所 (H7.1.26) 避難人数236,899人 (H7.1.24) 避難所就寝者数222,127人 (H7.1.18) <p>③ 公共施設の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所、病院等の重要公共施設の破損、倒壊 <p>④ 学校教育・社会教育・文化施設の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校園の約85%が被災 ・博物館、中央図書館旧館、ポートアイランドスポーツセンター等の破損、倒壊 ・酒蔵、異人館等の破損、倒壊 <p>(2) 都市機能の被害</p> <p>① 建築物、構造物の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全壊67,421棟、半壊55,145棟 (H7.12.22現在) <p>② 火災による焼損(確定値)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全焼6,965棟、半焼80棟、部分焼270棟、ぼや71棟 ・延べ焼損面積819,108㎡ ・火災件数175件(震災とほぼ同時に54件発生) <p>③ 交通ネットワークの寸断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阪神高速道路3号神戸線、同5号湾岸線等の倒壊 ・陥没、高架構造物の落下、建築物倒壊等による道路不通 ・鉄道の寸断 ・海上都市へのアクセスの寸断 <p>④ 港湾施設等の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテナバース、岸壁等がほとんど全て使用不能 ・港湾幹線道路の寸断 <p>⑤ 埋立地の液状化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部2～4工区、ポートアイランド等で液状化 <p>⑥ ライフラインの寸断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電 気 市内全域停止 (応急復旧に要した期間 7日間) ・電 話 約25%停止 (応急復旧に要した期間 15日間) ・水 道 市内ほぼ全域停止 (応急復旧に要した期間 91日間) ・工業用水道 市内全域停止 (応急復旧に要した期間 84日間) ・ガ ス 約80%停止 (応急復旧に要した期間 85日間) ・下水道 管渠・ポンプ場破損、処理場の機能低下(2/7箇所)及び機能停止(1/7箇所) (応急復旧に要した期間 135日間) ・ク ー ラー 全クリーンセンターの運転停止 (応急復旧に要した期間 35日間) 	<p>⑦ 公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1/3の公園が擁壁崩壊、舗装陥没、地割れ等の被害 <p>⑧ 河川</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二級河川 117箇所破損 ・準用・普通河川 27箇所破損 <p>⑨ 治山・砂防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急復旧を要する箇所 68箇所 <p>⑩ 社会・産業面の資本ストック全体の損害額(推計値)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約6兆9千億円 <p>(3) 神戸産業の被害</p> <p>① 基幹事業所及び製造大手企業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本社等中枢建築物の倒壊 ・生産ラインの停止 <p>② 中小企業・地場産業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケミカルシューズ 約80%が全半壊または全半壊 ・清酒造 50%以上の企業が全半壊 <p>③ 市場・商店街</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧市街地の商店街の約1/3、市場の約半数が甚大な被害 <p>④ 観光・コンベンション施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光施設、宿泊施設、コンベンション施設などで建物損壊などの被害 <p>⑤ 農漁業施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁港、漁船だまり、農地、農業用施設等が多数被害 <p>(4) その他</p> <p>上記の直接的被害にとどまらず、避難所生活に伴う精神的疲労や子ども・高齢者・障害者等への心理的影響、学校等教育機能の低下、ライフラインの復旧の遅れや交通渋滞などによる都市機能の低下、雇用の不安定化など、市民の生活に対して様々な面で、震災が影響を及ぼすこととなった。また、産業面においても、企業の市外への移転や被災による生産量の低下、港湾施設の被害に伴うコンテナ貨物の他港へのシフト、高速道路の寸断や復旧工事による交通容量の不足等により、神戸のみならず、日本経済へ深刻な影響を及ぼすこととなった。さらに、大量の災害廃棄物処理や、これに伴う環境への影響など、震災がもたらした被害は、広範囲で多方面にわたる深刻なものとなった。</p> <p>(5) 旧避難所等・仮設住宅・災害廃棄物処理について</p> <p>① 旧避難所 避難所は平成7年8月20日で終了し、待機所を平成9年3月31日まで運営。</p> <p>② 仮設住宅 ○建設戸数 32,346戸(市内29,178戸、市外3,168戸) ○撤去状況 全敷地原状復旧済。</p> <p>③ 災害廃棄物処理(平成10年3月末最終) ○実績 解体済 61,392棟(100%)</p>
--	---

～命の尊さと震災の教訓を語り継ぐ～

「子どもたちへのメッセージ運動」の取り組みをご紹介します

子どもたちに命の尊さと震災の教訓を語り継ぐため、平成16年4月に運動を始めました。
平成20年度までに1,208通のメッセージが、寄せられました。

2月～翌年1月
メッセージを募集



3月中旬～下旬
市民ギャラリー展示



9月～11月
子どもたちに届けます



発行：平成20年10月

発行者：神戸市・神戸市教育委員会

編集：神戸市保健福祉局総務部人権推進課 電話078-322-5234

協力：神戸市教育委員会指導部人権教育課 電話078-322-5807

〒650-8570 神戸市中央区加納町6丁目5番1号

広報印刷物登録平成20年度第164号A-1